「国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点による授業改善」
研究授業及び第１回研究検討会議実施要項

１　日　時　平成３０年７月９日（月）　１３：２０～ １５：２０
２　場　所　愛知県立小牧南高等学校
３　日　程

時限	時間	研修内容	研修講師等
昼放課 （会議室）	13:00～ 13:15	受付 会場案内	
		移動	
第５時限 （教室）	13:20～14:10	公開授業 １年６組国語総合（現代文） 単元名『羅生門』	授業者 小牧南高　教諭　田中琢斗 指導者 中京大学　　教授　酒井　敏 名古屋大学　教授　柴田好章 県教育委員会高等学校教育課 指導主事　加藤眞太朗
		移動	
第６時限 （会議室）	14:20～15:10	第１回研究検討会議 研究協議題 ・授業者コメント、ねらいと自評 ・参観者との質疑応答 ・指導者によるご指導 酒井先生 加藤先生 ・その他	指導者 中京大学　　教授　酒井　敏 県教育委員会高等学校教育課 指導主事　加藤眞太朗
	15:10～	諸連絡	

※　会場校からのお願い

- 勝手ながら、座席を指定させていただきました。各自でご確認いただき、ご着席下さい。
- 会議室から公開授業の会場へは、貴重品・筆記用具等を身につけてご移動下さい。会議室は第６限の研究協議開始まで施錠いたします。
- 会場間の移動につきましては、本校職員の誘導に従って下さい。
- アンケート用紙を付けさせていただきました。今後の研究進展の参考にさせていただきますので、感想・ご意見をお寄せ下さい。本日の最後に回収いたします。

国語科（国語総合・現代文）学習指導案

指導者　田中琢斗

一　日　時　　平成三十年七月九日（月曜日）　第五時間目（50分）

二　学　級　　第一学年　六組（四十名）

三　単元名　　原典との比較により、作者の意図を考えよう

四　単元の目標

（1）文章の構成を確かめ、作者の意図を捉えようとする。（関心・意欲・態度）

（2）文章の構成を確かめ、作者の意図を捉える。（読む能力）（「C読むこと」（1）のエ）

（3）文や文章の組み立てを理解し、語彙を豊かにする。（知識・理解）（「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（1）のイの（イ））

五　取り上げる言語活動と教材

（1）言語活動：二つの文章を読み比べ、その違いを発見し、作者の意図を考察する。（「C読むこと」（2）エ）

（2）教材：芥川龍之介『羅生門』（東京書籍「国語総合　現代文」）

今昔物語集『羅城門の上層に登りて死人を見たる盗人のこと』（同出典）

六　単元の具体的な評価規準

（1）二つの文章の構成を確かめ、その違いから作者の意図を捉えようとしている。（関心・意欲・態度）

（2）二つの文章の構成を確かめ、その違いから作者の意図を捉えている。（読む能力）

（3）段落の組み立て、語句の意味、用法などを理解し、語彙を豊かにしている。（知識・理解）

七　指導観

（1）単元観：下人の心情と行動のつながりが端的に表されているため、小説の読み方を学習することができる。

（2）学習者観：落ち着いて学習に向かうことができている。比較して小説を読む方法について指導することで、さらなる飛躍に期待したい。

（3）教材観：人間のもつエゴイズムの不確定さを、下人の心情描写により表している。

八　単元の指導計画（配当時間8時間）

次 時間	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準、◆評価方法、 ＊努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第1次 4時間	・『羅生門』を読解する。	・下人の心情と行動に注目して読解させる。	◇（3） ◆記述の確認（プリント） ＊予習やノートの取り方を改善させる。
第2次 4時間	・『今昔』と『羅生門』を比べ、その違いから作者の意図を考える。 ・班で考察を共有する。 ・班ごとに発表し、他の班はルーブリックにしたがって評価する。 ・指導者からフィードバックする。	・現代語訳のついた『今昔』と比較し、ワークシートをもとに、二文の違いと『羅生門』作者の意図を考えさせる。 ・班の中で交流させ、他の意見を聞きながら、発表原稿を作る。 ・ルーブリックを配布し、他班の発表を客観的に評価できるようにする。	◇（2）（1） ◆記述の確認（ワークシート） ＊『今昔』と『羅生門』それぞれにおける主人公の心情や行動の違いを確認させる。

※前時までに個人・班で両者の違いをいくつか考えさせる。その中から指導者がいくつか抽出し、それを教室全体で共有し、自分たちが発表したいと思う違いを班で選ばせ、発表準備をさせる。

九　本時の目標

二つの文章の構成を確かめ、作者の意図を捉え、考えたことを発表する。（読む能力）

十　本時の評価規準

二つの文章の構成を確かめ、その違いから作者の意図を考えた発表ができている。（読む能力）

十一　本時（全８時間中の８時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 （5分）	・本時の学習内容を知り、班に分かれる。	① 資料に基づく発表を行う準備をする。	① ルーブリックによる評価の方法を再確認する。
展開 （35分）	・班ごとに発表する。 ・他の班はルーブリックにしたがって評価する。 ・指導者からフィードバックする。	② 完全なルーブリックを配布すると、気づいてほしい点が生徒にわかってしまうため、相違点をあえて書いていないルーブリックにより評価させる。指導者からのフィードバックによって補完する。 ③ 班へのフィードバックを含め、気づいてほしい違いについて説明を補足する。	② 生徒は班のレベルでの理解で、評価をさせる。 ③ 気づいてほしい相違点に気づくことができた班があれば、その班の意見を取り上げながら、補足していく。
終結 （10分）	・振り返りをする。	④ 振り返りシートを書くことで、学習の理解を確認する。	④ 自分の考察と他班のとを比べ、また指導者のフィードバックを聞き、理解を確認させる。 ◇（2）（1） ◆ワークシートの確認

十二　御高評

ワークシート１（個人）　違いを確認しよう

一年　　組　　番（　　）

『今昔物語集』の『羅城門』

違うところ

芥川の『羅生門』

組　　班

ワークシート２（班）　違いを確認しよう

『今昔物語集』の『羅城門』

違うところ

芥川の『羅生門』

組　　班

ワークシート３（班）　違いを確認しよう

『今昔物語集』の『羅城門』

違うところ

芥川の『羅生門』

作者の意図（なぜ芥川龍之介は、原典と違う部分を書いたのだろう）

発表用ルーブリック

発表のルール　①発表では、発見した違いと、そこから導き出される作者の意図を伝えてください。
②発表を聞くときは、発表してくれている生徒の邪魔にならないよう、「聞く姿勢」に気をつけてください。
③自分の班が発表した直後の「評価する時間」は、自分の発表を振り返って、評価シートに自己評価を記入しましょう。

評価は、左のルーブリック（評価基準）を参照して行おう！

☆発表内容に関するルーブリック

レベル／観点	（A）意図の重要度	（B）内容の合理性
5	発表者が選んだ相違点から導かれた作者の意図が、『羅生門』の主題としてふさわしいものと考えられる。	行われた説明に筋が通っていて、「なるほど」と思える。
1	発表者が選んだ相違点から導かれた作者の意図が、『羅生門』の主題とまではいえない程度ものである。	説明や考察に飛躍があり、筋が通っていると思えない。もしくは、「言い過ぎだ」と思う。

☆発表方法に関するルーブリック

レベル／観点	（C）発表の基礎	（D）発表の応用
3	クラス全員に発表の内容が聞こえる声の大きさである。	ただ原稿を読むのではなく、聞いている人の興味をひくような発表の工夫がされている。
1	クラス全員に発表内容が聞こえない。	聞いている人の興味をひくような発表の工夫は、特にされていない。

『今昔物語集』「羅城門の上層に登りて死人を見たる盗人のこと」の現代語訳

今となっては昔のこと、摂津の国のあたりより盗みをするために京へ上ってきた男が、まだ日が高かったので、羅城門の下に隠れて立っていたが、朱雀大路の側には往来が絶えないので、人通りが静まるまでと思い、門の下で待っていると、山城の側から人が大勢近づいていくる音がしたので、姿を隠さなければと思い、門の二階へ音を立てないようによじ登ったところ、かすかに火がともされているのが見えた。

盗人は怪しいと思い、格子ごしにのぞきこむと、若い女の死体が横たわっている。その枕元に火をともし、とても年老いた白髪の老婆が、死人の枕元に坐り、死人の髪を引き抜いていた。盗人はこの様子を見てわけがわからず、これは怨霊ではないかと思い、恐ろしくなったが、いや、ただの死人かもしれない、脅かして正体を確かめてやろうと思い、そっと戸を開け、刀を抜き、おのれは、おのれは、と叫びながら駆け寄ると、老婆は、おどろき震える手を合わせ拝みはじめたので、盗人が、この老女、なにをしているのだ、と問いつめると、老婆は、私の主人でいらっしゃった方が亡くなり、世話をしていただける方がいらっしゃらなかったので、ここに置かせていただきました、御髪が背丈より長かったので、鬘にしようと抜いていおりました、お助けください、と言ったので、盗人は、死人の着ていた衣と、老婆の着ていた衣と、抜き取ってあった髪を奪い取り、走って逃げていった。そのほかにも、二階には死人の骸骨がたくさんころがっていた。葬ることができなかった死人を門の上に捨て置いたものである。

この話は、その盗人が人に語ったのが人づてに伝わり、このように語り伝えられているという。

「国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点による授業改善」
研究授業及び第１回研究検討会議

２０１８．７．９
於：小牧南高校
１３：２０～１５：２０

１　公開授業　１３：２０～１４：１０　　於：１年６組教室　　授業者：田中琢斗

授業内容：国語総合・現代文（１年６組）

『羅生門』について一通りの読解を終えた後、芥川龍之介『羅生門』とその原典とされる『今昔物語集』の該当話について比較し、その相違点を班ごとに明らかにした。そして、相違点を発見し、そのような相違点が存在する理由から、『羅生門』の主題に迫ろうとした。

授業者反省：

授業の内容に関する反省として、一年生のこの時期に、作品の主題を考えるという課題の難しさについて、失念していた。今回の目標としては、模範解答的な主題にたどり着くことも大事だが、それ以上に生徒が自分なりの「読み」でもって、作品の読解に取り組むということを目指していた。したがって、授業実践前に主題に対して自分の読みで迫る、ということの方法を示しておくべきだった。

また、ルーブリックに関しても反省が二点ある。一つはルーブリックの評価にあった、「発表内容が作品の主題にふさわしいといえるかどうか」という点で、多くの生徒がほとんどの班に最高評価を付けていたことだ。ルーブリックについて理解出来ていないということは、自分の発表も良い評価の付くものではないと言える。授業内容の深い理解のためにも、まずはルーブリックについての理解が必要になると感じた。

もう一つは、生徒が他の生徒を評価するときに、どうしても“優しく”評価してしまうということだ。評価を受けて、それぞれの班が反省し、次回に活かすことで成長していけるので、批判的な評価をすることを先に強く伝えておくべきだった。

２　第１回研究検討会議　１４：２０～１５：１０　　於：会議室

（１）授業者コメント（授業のねらいや自評）

・生徒から主体的な読みを引き出し、「エゴイズム」という主題にたどり着かせたかった。各班の結論で、「下人の行方を読者に想像させる」、「戦争で生に敏感になっていた」、「因果応報を表現したかった」など、説明に筋は通っているが主題ではなかったり、本当に芥川がそのように考えていたかまでは分からなかったり、という結論が出ていたので、次時で補足が必要である。
・主題を先に説明した後で、原典との差を合理的に説明させることをねらいとした授業展開もある。
・ルーブリックの説明文で、「『なるほど』と思える」が生徒にとって分かりやすいのではないか。「合理的」「論理的」だと生徒に伝わりづらい。生徒が分かる表現でルーブリックを書くことで、生徒の客観的な他者評価につながる。

（２）参観者より

①ワークシートについて

・ワークシートを詳しくすると想定が決まってしまう。生徒の考えを引き出すために自由に書かせていた。違いを多く出していたが、どれを選べば良いか逆に迷わせてしまったかもしれない。こちらの期待以上の記述をしている生徒もいれば、深まっていない班もあり、深まりの差を埋めさせたい。

・「主題を見つけさせる」または「差を合理的に説明する」というねらいが違えば、同じワークシートでも授業展開が変わる。

・第１次世界大戦の背景を踏まえて説明をした班もあったが、作品が書かれた背景を合わせて考えることも大切である。自由に違いを見つけさせたからこそ出てきた高度な読み方でもある。

②評価について

・クラス全体で評価を決めさせても良かった。

・すぐに判断できるようルーブリックが２段階になっていたが、どちらの評価にもあてはまらない班もあり、項目によっては３段階もあっても良いかもしれない。

・評価シートのコメントで「良かった点」以外にも、疑問や改善点も話し合って書けると、なぜその班が高評価となるかを明確にさせることができる。

・他者にはなかなか低い評価をつけづらい。批判的にも評価できるように評価の指導をするとともに、ルーブリックの研究も必要である。

（３）中京大学酒井先生より

①生徒一人一人が自分の読みを作る

なにも手がかりのない状態では自分の読みを作ることはできないので、今回は「比較」という手法を与えた実践だった。比較することにより、読みを深めることができる。今回は「羅生門」と「今昔物語集」との比較だったが、他の比較方法もある。例えば芥川の書いた「羅生門」は、初めは結末が現在よまれているものと違っていたことから、作者の中でなぜ結末を変えていくようになったか、という比較も可能である。いつ・どこまで生徒に情報開示するか、を練る。

②どう考えればよいか共有する経験が大切

「ワークシート１」の段階では個人で、「ワークシート２」の段階では班で、両作品の違いを確認させた。そして班で出た意見を黒板に集約し、各班でその中からキーワードとなる違いを選んだうえで、「ワークシート３」を作成させた。しかし絞り込みの段階で残してほしい意見が消えてしまうこともある。出てきた意見をドラフト制で各班が選んでいき、１回はどこかの班が使う、などの手法もある。

また、オープンエンドに着目した班があったが、オープンエンドは手法であり、主題ではない。主題とは何か、を考えさせたい。

③ルーブリックでの評価

差をつけるためには２段階は有効である。中間点を設定すると、すべて中間点になってしまう。観点Ｃの「発表の基礎」についての評価は、「聞き取りにくいと思ったら１点」と言っておいてもよい。

また、発表内容に関するルーブリックは、５点分を２～５項目などに分けておいてそれぞれの項目について「○／△／×」をまずはつけておかせて、後から点数化させる方法をとれば、作業が機械化でき、

発表を見てすぐによどみなく評価を行うことが可能になる。

話し方は上手くないが語りかけ調である班は他の生徒からの評価が高かった。パフォーマンス力の差が評価に影響を与えることは一概に良し悪しを言えない。「読み取ったことを人に伝える所までが一連である」という考え方もある。司会・計時を生徒がすると生徒が緊張しなくなる。

（４）高等学校教育課指導主事加藤先生より

集合知としてまずは案をたくさん出させ、「どのように集約すれば主題に近づくか」を深めることで、授業のねらいに近づく展開となる。小説における主題とは何か、を考えさせても良いのではないか。